築地本願寺
東久留米会館
会　報

ともしび

—TO MO SI BI—　第242号

2016（平成28）年6月

降誕会

日中の気温が上がり、外に出ると汗ばむ陽気となってまいりました。冷たい飲み物が、より一層美味しくなってくる季節でもあります。特に汗をかいた後のビールは格別ですね。

さて今月（6月5日）、当会館では浄土真宗の宗祖親鸞聖人のお誕生日をお祝いする降誕会（ごうたんえ）をお勤めいたします。

親鸞聖人は、1173（承安3）年5月21日に京都の東南・日野の里でお生まれになったと伝えられています。父は日野有範、母は吉光如（きっこうにょ）といわれています。日野家は藤原氏の流れをくむ一族でした。

親鸞聖人が誕生された時代（平安時代末期）は、藤原氏を中心として長く続いていた貴族の政治が終わり、平氏が政権をとり、武家の政治へと変わっていく時代でした。また、その平氏を打ち倒そうと源氏が兵を起こした戦乱の時代でした。この政権争いによる戦乱の数々は、人々の心を不安にさせたのです。

また、そのような戦乱に加え、世の中の混乱を一層深刻にしたのは天災や疫病などによって多くの人々が亡くなっていったことでした。親鸞聖人もこのような世の中に無常を感じ、9歳で出家して仏道修行に励むようになられたのでしょう。

親鸞聖人が比叡山でどのような学問修行をされたのかは、はっきりとはしませんが、天台宗の開祖・最澄が定められた修行法では、自らの力をたよりに修行し、千日回峰行などの厳しい修行を積むことで煩悩をなくし、仏のさとりを得ようとするものでありました。親鸞聖人は、厳しい修行によって自らの心を磨き、仏のさとりを目指されました。しかし、励めば励むほど、見えてきたのは、自分の心のみにくさであったのです。

そこで、百日間に及ぶ六角堂への参籠をされ、95日目の夢の中で聖徳太子のお告げにより、20年間厳しい修行を積まれた比叡山を降り、法然聖人のもとへと行かれたのです。これこそが、お念仏の道を歩まれることとなった転機なのです。

親鸞聖人は、法然聖人に会うため吉水の草庵を訪ねられました。そこには、武士や農民などさまざまな身分の人びとが集まっており、善人も悪人もすべての人が同じように救われていくお念仏の道があるということを聞かれ、これこそが自分の歩むべき道であると確認されたのです。

『歎異抄（たんにしょう）』という書物において、

「たとえ法然聖人にだまされて、念仏申して地獄へ堕ちたとしても、決して後悔はしない」

と仰せになりました。この言葉から、いかに親鸞聖人が法然聖人を信頼していたかということ、お念仏の道による救いを確信されていたかがうかがえます。

皆さまも人生において、師と仰ぐ方がおられるでしょう。親鸞聖人にとっては、法然聖人がまさに人生の師であったのです。私たちは厳しい仏道修行に励むことはできませんが、親鸞聖人が出遇われ、実践されたお念仏の道をこの降誕会で味わわせていただきましょう。

仏事あれこれ

仏事のQ&A

Q．故人は冥土へ旅に出る？

A．死と同時に仏さまになる

浄土真宗の教えは、「阿弥陀仏より賜る信心一つで、死と同時に浄土に生まれ、仏さまと成らせていただく」という教えです。したがって、葬儀もこの教えに則して行われることは言うまでもありません。亡き人はすでに浄土に参られ、仏さまとなって私たちにはたらきかけてくださっているのです。

なぜこんなことを言うかと申しますと、葬儀には、「死出の旅路」の発想に基づく風習も、根強く残っているからです。

それによると、故人は死後「冥土の旅」にトボトボ出かけるそうです。そのため、遺族らは旅支度を整えるなど「旅路の手助け」をしなければならないわけです。たとえばワラジや脚半、手甲、経帷子といった旅装束を死者に着せたり、枕元には枕団子や枕飯を供えたりします。これは旅行中の弁当代わりだそうです。

こうして準備万端整えて「さあ、迷わず冥土へ行ってくれ」となるのでしょう。

しかし、亡き人はすでに浄土に参られ、仏さまに成られているのです。旅する暇もなく、阿弥陀さまのはたらきによって救いとられているのです。したがって、旅支度をする必要はありませんし、修行の手助けや冥福を祈る必要もないわけです。もっとも、こんな風に「必要なし」とばかり言っていると「では何もしないのか」と言われそうです。

そこで、遺体の扱い方について申しましょう。まずお仏壇に、なるべく北枕になるよう安置します。顔は白布で覆い、手を合わせて念珠をかけます。また、納棺の際には体をていねいにぬぐい、清潔な白衣を着せてあげてください。このように決して遺体を粗末に扱うのではなく、教えにそぐわないことをしないまでです。

『新・仏事のイロハ』より抜粋

お知らせ

「奉讃会」入会のご案内

当会館では、会員を随時募集しております。当会は平成7年に発会して以来、法要・法座への参拝や清掃などのお手伝いをはじめ、研修旅行・親睦会など幅広く活動しております。

また、築地本願寺や京都への参拝などご一緒しませんか。お寺にご縁のある方、興味のある方、どなたでも結構です。是非ご入会ください。

年会費3千円（一家族あたり）

西武バスに広告掲出！

先月に引き続き、当会館の広報強化のため、西武バス車内にステッカー広告を掲出しました。

知る人ぞ知る東久留米会館から、誰もが知る東久留米会館になるよう、目指します。西武バスをご利用の際は、是非探してみてください。

5月行事の様子

★慈光院落慶法要　5月9日(月)　13時00分～16時00分

築地本願寺分院・慈光院の本堂が新築され、ご門主さま御導師のもと落慶法要がお勤めされ、当会館からは５名の方がお参りされました。

慈光院外観

記念撮影

記念布教（西原祐治師）

当日は午後より雨に見舞われましたが、本堂には100名を超える方が参拝をされ、ご門主さま御導師のもと法要がお勤めされ、御親教（ご門主さまのご法話）もいただきました。

★常例法座　5月15日(日)　13時00分～15時00分

爽やかな陽気のもと常例法座がお勤めされ、ご講師・小林賢五師からは、歓喜と報恩感謝についてご法話いただき、18名の方が参拝されました。

勤行「正信偈」

５月のお誕生日の方

お誕生日おめでとうございます。
これからも元気でお参りください。

ご法話

東久留米会館の 行事案内 —Schedule—

▶ 6月の行事予定

降誕会・奉讃会総会

6月5日(日)　午後1時～

ご講師　宮本義宣 師
（神奈川県 高願寺）
宗祖親鸞聖人のお誕生を
お祝いする行事です。

親鸞聖人御命日お晨朝総参拝

6月16日(木) 午前7時～

月に１度、朝のお勤めにお参りしませんか？
お供物のおさがりをプレゼントいたします。

第１回キッズサンガ子ども会

6月18日(土) 午前10時～

お念珠作りをします。オリジナルのお念珠で
お参りすると、楽しくなるかも！？
どうぞ、ご家族でご参加ください。

▶ 7月の行事予定

常例法座

7月10日(日) 午後1時～

ご講師　毛利 祥真師
（神奈川県 立徳寺）

お気軽にお参りください。

キッズサンガ一泊サマースクール

7月30日(土) 午後2時～
31日(日) 午前 11 時まで

お寺でたくさんの友だちと泊まって、
ゲームや花火、仏さまのお話を聞く
一泊サマースクールを開催します。

5月29日おみがきお手伝い

大嶋 弘様　神谷正弘様　北川康雄様
髙田慶彦様　森澤忠和様　奥川眞三様
加藤吉長様　神谷玲子様　大嶋貢子様
菅野ヨシコ様　西ユリ子様　田口康子様
浅野由美様　岸田礼子様　才野木康雄様
髙田テルハ様　岩内まき子様　渡邉タキ子様
石田和美様　石田 優様　田口洋海様
田口輝美様　胡桃沢有希様

今月のお仏飯米のご進納

加藤吉長様

ありがとうございました。

編集後記

先日、家族４人で都内の遊園地へ行きました。長女に手を引かれ、多くの乗り物に乗っていると、久しぶりの遊園地に自分自身も楽しんでいることに気づきました。しかし、遊園地の乗り物はクルクル回るものが多く、帰り際には足元がフラフラ…（安）

東久留米会館会報　「ともしび」
発行日　2016年6月1日　第242号
発行者　安邉 泰教
住 所　東京都東久留米市柳窪5-8-30
電 話　042-474-6787